

## 2. 安心できる環境づくりのヒント - ソーシャルワークの視点を取り入れる

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

仮設住宅での子どもの居場所づくりや支援を考えるにあたって、意識したのは、支援を一方向的・一過性のものにしてはならないということでした。原発災害という特殊な状況下で、生活の再建の見通しはなかなか立たず、避難生活の長期化が既に見込まれる中で、ボランティアの関わりも保ちながらも、避難生活をしている仮設住宅の住民自身が、子どもを支える担い手となり、子どもを中心としたコミュニティの再生こそが大事と考え、自治会と連絡をとって見守りに参加いただいたり、保護者会結成の呼びかけなどを行ってきました。

また、必要に応じて外部の支援者や支援機関とつながる窓口やコーディネートの機能も担ってきました。



保護者会の様子  
子どものことについての親同士の意見交換ができるきっかけとなりました。

